

企画書

作成日 2022年12月12日

作成者 淵野 石岡

現状分析・問題/課題点

医師会医師と訪問看護ステーションでは、コロナ過になり顔の見える関係が減少している。

又、各医療機関では訪問看護の役割の認識に相違がある可能性がある。

今後も在宅療養者は増える一方で、訪問看護の利用も増えることが予測されるため、訪問看護ステーションと医療機関との連携体制を構築させる必要がある。まず、共通認識を持つ機会のつくる必要性を感じる。

企画の概要

多摩市内の訪問看護ステーション全てと多摩市医師会とを結ぶ多摩市医師会・訪問看護 ST 連絡会（仮称）の立ち上げを行う。

多摩市内の在宅医療の資質向上と顔の見える関係づくりを行う。

具体的な内容

MCS を基礎とした連絡ツールを使い、情報共有や勉強会などを企画運営する。

①対面での連絡会（年数回）を開催する。

②ICT（MCS）ツールを利用して情報提供や研修会の企画運営をする。

得られる効果・メリット

①医師と訪問看護師との連携強化。

②訪問看護ステーションの資質向上・人材育成・情報の見える化が図れる。

予算・スケジュール

<予算>

予算無し

<スケジュール>

2023年4月設立に向けて、医師会と訪問看護 ST とでの意見交換会を実施。

第1回連絡会（対面）は2023年5月頃を検討。

備考

（オ）在宅医療・介護関係者に関する相談支援に当てて実施していく。